【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第１区分
【発行日】平成27年2月19日(2015.2.19)

【公開番号】特開2012-87797(P2012-87797A)
【公開日】平成24年5月10日(2012.5.10)
【年通号数】公開・登録公報2012-018
【出願番号】特願2011-228998(P2011-228998)
【国際特許分類】
Ｆ０２Ｍ　35/12　　(2006.01)
Ｆ０２Ｍ　35/10　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ０２Ｍ　35/12　　Ｆ
Ｆ０２Ｍ　35/10　　３０１Ｌ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成26年12月22日(2014.12.22)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
内燃機関のエアインテーク用のアッテネータであって、
壁を有するチューブと、
入口及び出口と、
前記チューブを包囲するエンクロージャと、
該エンクロージャをプライマリ及びセカンダリの各チャンバに分割する環状のバッフルと、
を含み、
前記チューブの内部が前記チューブの壁の孔を介して前記プライマリチャンバと流体連通し、
前記セカンダリチャンバが前記バッフルの開口を介して前記プライマリチャンバと連通し、
前記セカンダリチャンバが前記開口を除き閉鎖されるアッテネータ。
【請求項２】
前記バッフルが前記チューブの軸に実質的に直交する請求項１に記載のアッテネータ。
【請求項３】
前記エンクロージャの断面が実質的に円形または楕円形である請求項１または２に記載のアッテネータ。
【請求項４】
前記エンクロージャが前記チューブを通しての流体流れ方向でその断面が実質的に変化する請求項１～３の何れかに記載のアッテネータ。
【請求項５】
前記開口が前記チューブの周囲で実質的に等間隔に設けられる請求項１～４の何れかに記載のアッテネータ。
【請求項６】
前記孔の合計断面積が前記開口の合計断面積より大きい請求項１～５の何れかに記載のアッテネータ。

【請求項７】
前記エンクロージャの最大横断方向寸法が前記チューブの最大横断方向寸法の３倍未満である請求項１～６の何れかに記載のアッテネータ。
【請求項８】
前記各孔の断面積が実質的に同一であり、各孔の断面積が５～１００ｍｍ^{2}の範囲である請求項１～７の何れかに記載のアッテネータ。
【請求項９】
前記各開口の断面積が実質的に同一であり、各開口の断面積が１００～３００ｍｍ^{2}の範囲である請求項１～８の何れかに記載のアッテネータ。
【請求項１０】
２つのセカンダリチャンバを画定する２つのバッフルを有し、各バッフルがプライマリチャンバと関連する請求項１～９の何れかに記載のアッテネータ。
【請求項１１】
前記セカンダリチャンバが前記プライマリチャンバの各側に各１つ設けられる請求項１０に記載のアッテネータ。
【請求項１２】
２つのプライマリチャンバを有する請求項１０または１１に記載のアッテネータ。
【請求項１３】
前記プライマリチャンバがエンクロージャの各端部位置に設けられる請求項１２のアッテネータ。
【請求項１４】
前記セカンダリチャンバが異なる容積を有する請求項１０～１３の何れかに記載のアッテネータ。
【請求項１５】
各バッフルが同数及び同サイズの開口を有する請求項１０～１４の何れかに記載のアッテネータ。
【請求項１６】
プライマリ及びセカンダリの各チャンバがチューブを通しての流体流れ方向における実質的に同一長さを有する請求項１０～１５の何れかに記載のアッテネータ。
【請求項１７】
エンクロージャの最大軸方向寸法及び最大横断方向寸法比が５：１またはそれ未満である請求項１～１６の何れかに記載のアッテネータ。
【請求項１８】
請求項１～１７の何れかに記載のアッテネータを有するエンジンまたは自動車。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００８】
本明細書において、“孔”及び“開口”とは、チューブ壁及びバッフルの各通路を区別するため用いられ、その形状、寸法または外観については限定されないものとし、同様に、“プライマリ”及び“セカンダリ”とは、寸法、位置あるいは機能に関する相対的な重要性等の任意の特定特性を意図及び付与あるいは限定付加するものでは無く、“第１”及び“第２”は同等に用いられるものとする。
一実施形態では、プライマリ及びセカンダリの各チャンバは開口を除いて閉じており、複数の孔及びまたは開口を設け得る。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２１

【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２１】
給気ダクト４は孔１７を介して中央のチャンバ１１と連通し、当該チャンバ１１は開口１５、１９を介してチャンバ１２、１３と連通する。チャンバ１１、１２、１３は、開口１５、１９を除き閉鎖され、ノイズ及び振動の広帯域減衰用に調整可能な多数のレゾネータを提供する。
本実施例における設計形状は、
・各チャンバの軸方向長さ
・チャンバ外径
・給気ダクト径
・給気ダクトの孔開け長
・給気ダクトの孔サイズ
・給気ダクトの孔数
・バッフルの孔サイズ
・バッフルの孔数
を変更可能である。